蝶々の産卵の季節、深い森の奥にはたくさんの大きな木と、十分な食料があり、たくさんの蝶々が産卵のためにやってきます。

産み落とされた卵の中の一つが木から落ち、風で吹き飛ばされて別の木にたどり着きました。

その木には、ほかの種類の蝶々がたくさん住んでいました。

時が過ぎ、卵がかえって毛虫になり始めました。

でも、一つだけ大きな卵がかえらず、毛虫たちは口々に

「どうしてこの卵はかえらないんだろう？　早く出てきてくれないかな。」

と待ちのぞんでいました。

3日後、その大きな卵がかえると、他の毛虫とは違って、太った毛虫が出てきました。

そして、その毛虫は「太っちょ毛虫」と呼ばれるようになりました。

太っちょ毛虫は他の毛虫がとてもきれいな模様をしているので、友達になって一緒に遊びたいと思いました。

でも、他の毛虫たちは

「太っちょ毛虫は見た目が違うから、友達にはなりたくない」

と言いました。それを聞いた太っちょ毛虫は

「あなたたちはとても美しいです。でも、心の中は違います。」

といい、空を仰ぎました。そして、

「私は他のみんなとは違うし、一生みんなのようにはなることはできない。」

とつぶやきました。

太っちょ毛虫の近くにあった木の枝にトンボがいて、

太っちょ毛虫の姿をずっと見ていました。

そしてトンボはいいました。

「私はあなたのようにたくさんのお友達がいるトンボになりたいです。どうやったらあなたのようになれますか？」

太っちょ毛虫は答えました。

「友達になるのには外見だけを見てなるのではなく、心の中が大切です。そして、どのように振舞うかが大事なのです。」